

# 光明

こうみょう

夏

第231号

〈特集1〉

夏を楽しむ精進料理

〈特集2〉

夜空に手向ける花

法事のしおり

しん こんしゅう ぶ ざん は  
真言宗豊山派

# 光明

目次 夏  
第231号

- 01 | 宗派トピックス  
弘法大師御生誕千二百五十年記念慶讃  
総登嶺結願法要

- 05 | 特集1  
夏を楽しむ精進料理

- 13 | 仏道・心の処方箋 ③

- 15 | 弘法大師に学ぶ ⑦

- 17 | 齋藤孝の  
学ぶ楽しみ 心穏やかに生きる ⑥

- 19 | 特集2  
夜空に手向ける花

- 25 | 法事のしおり ②

- 27 | 仏教童話 ⑭  
長者の約束

- 31 | 必見！長谷寺の寺宝 ⑥

- 33 | ヘルシーうれしい 精進料理 ⑫

- 35 | 作品募集 仏さまを描いてみよう！

- 37 | なるほど仏事のQ&A

- 40 | こうみょうパズル



表紙写真  
長岡まつり大花火大会の正三尺玉



弘法大師御生誕千二百五十年記念慶讃

# 総登嶺結願法要



令和六年一月二十六日、  
小雪が舞う寒さの中、総本山長谷寺御影堂にて、  
真言宗豊山派管長 総本山長谷寺化主 浅井侃雄猊下  
御親修のもと、宗派役職の僧侶及び山内僧侶により  
「弘法大師御生誕千二百五十年記念慶讃 総登嶺結願法要」が  
厳修され、お大師さまへ無魔成満のご報告がなされました。  
浅井猊下は、弘法大師御生誕千二百五十年の慶賀を寿ぎ、  
総本山長谷寺へご登嶺いただいた皆さまへの御礼と、  
これからお大師さまの御教えを心に感じていただきたい  
とのお言葉を述べられました。



# 長谷寺参詣図扇面

〜風俗画の醍醐味について〜

今回は「長谷寺参詣図扇面」という掛軸を「風俗画」という視点から観てみたいと思います。この作品は、江戸時代初期に描かれたもの。掛軸装になっっている扇面図や団扇図には、扇や団扇として実際に使われていたものを掛軸に表装したものと、初めから掛軸表装にして「絵」として描かれるものがあります。実際に使用されていたものは扇の骨のあとが残っていないので、実際に扇としては使われていません。はじめから掛軸の作品として描かれたものです。扇面の上部に書かれている文字は「はせ」。

この作品には仁王門から登廊、鐘楼、本堂の外舞台と、今と変わらない長谷寺の姿が描かれています。

そのなかで注目してほしいのは、絵の中に描かれている人たち。画家の眼から見た、当時の長谷寺の様子が見事に切り取られているのです。

本堂で観音さまにお祈りしている人。仁王門の前で、これから参詣しようとしている人。参詣の為に本堂まで石段をのぼっていく人。参詣が終わって登廊の石段を下っていく人。そしてお坊さんもいます。豪華な着物をまとった人もいれば、旅支度の質素な着物を

着た人も。ちなみに鐘楼のすぐ隣、金雲に隠れて足だけ覗いている人もいます。

「風俗画」という言葉はあまり馴染みのない言葉かもしれませんが。仏画は仏さま、花鳥画は花鳥。それと同様に風俗画は「人間」を描く絵なのです。つまり、この扇面図も風俗画というジャンルの絵にあたります。

今と同様、人々は昔もさまざまな立場で生きていました。「風俗画」という絵のジャンルの一番の醍醐味は、さまざまな立場にいる「当世」の人間の日常を余すことなく描くこと。「当世」とは、その絵を描いた画家の生きている時



長谷寺参詣図扇面

と同じ時代ということです。「風俗画」とは、いま生きている人達の生活を描く絵なのです。それは、その絵を描く画家自身が自分の生きている時代を好きだと思っていないか決して出来ないことです。風俗画は、その画家の「生」や「人間」に対する愛おしさがあらわれた絵だと私は思っています。

この絵に描かれている人々は何人でしょうか。数えてみてください。

正解は、25人。  
この小さな扇面に、25人ものさまざまな立場の人が描かれています。これが、画家の「当世」に対する興味のアラわれで、それを垣間見ることができ、そこが風俗画のひとつの魅力、愉しみ、面白みだと思います。

この絵はとても小さいですが、人々の表情や風景の細部など、細かく観れば観るほどそのなかに色々な気付きがある、画家の長谷寺に対する愛情がとも感じられる作品です。

長谷寺学芸員

久野由香子

なるほどの  
仕事の  
Q&A

日常の仕事の疑問にわかりやすくお答えします



Q お盆とはどういう行事ですか？



A 餓鬼道に堕ちた母親を救うため、目連尊者が僧侶たちに食べ物をお供えして供養したという『孟蘭盆経』に出てくるお話が元になりました。これに先祖の靈魂を祀る祖霊信仰が合わさり、現在のようなお盆の形になったと考えられています。

Q なぜ夏にやるの？



A 目連尊者が僧侶たちに食べ物をお供えしたのが、雨安居(夏の修行)が終わる日だったことに由来します。また、この説話がインドから中国に伝わった際、中元(7月15日)に神を祀る道教の風習と混ざったことから、お盆の中心が7月15日となりました。

Q 先祖さまを含めたすべての精霊に食べ物を供え、お経を唱えて供養することが、現在のお盆の主旨となります。

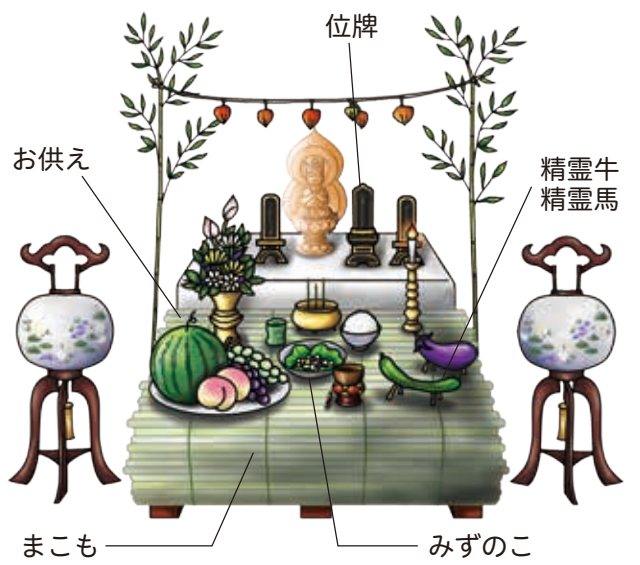
現在七月盆と八月盆があるのは、明治時代に旧暦から新暦に移行した際、どちらに合わせるか地域によって違いが出たからです。

Q どんなことをすれば良いですか？



A 精霊棚(盆棚)を準備します。下の絵を参考にしてください。全部はできなくても、おうちでできる範囲で大丈夫です。

- ・位牌などを仏壇から出し、やわらかい布で乾拭きして精霊棚にお飾りします。
- ・13日に迎え火を焚いたりお墓参りをして、ご先祖さまをお迎えます。
- ・精霊棚には毎日、食事やお線香をお供えします。
- ・お寺や自宅などで、僧侶にお盆のお経をあげてもらいます。
- ・15日か16日に送り火を焚いたりお墓参りをして、ご先祖さまをお見送ります。



※精霊棚の準備は地域のならわしや、寺院ごとに異なる場合があります。わからないことはお気軽に菩提寺に相談しましょう。